

主日礼拝10月16日(日)

<教会創立119周年記念礼拝>

題 「神のために力を合わせて働く」

テキスト：コリントの信徒への手紙3章1節1～9節

皆さん、おはようございます。

今日は洲本教会の創立119周年を記念する礼拝をこのように捧げることができますことを感謝いたします。

週報に記していますが、洲本教会は、**1903年(明治36年)10月19日**に誕生しました。神の憐みと恵み、信仰の先達の歩みを思い感謝あるのみです。主日礼拝を大切にし、みことばと祈り、賛美、主にある交わりを大切にする主イエス・キリストの教会として、歴史に込められた神さまの恵みを感謝しながら、神さまに喜ばれる群れとなるために主イエスにつながり共に励まし合っこれまで歩いて来たことを感謝します。長い歴史の中で、教会にも日本にも世界にも大変なこと、時にいくつかの戦争があり、また一昨年から新型コロナウイルス感染拡大という誰も経験したことのない時を過ごし今もその状況の中にいます。礼拝の形も少し簡略化していますが、再び以前のように礼拝を守る時が一日も早く来ることを皆様と共に祈っています。またこれから先の洲本教会の歩みを主に祈りつつ思い巡らすことも大切なことなのだと思います。

わたしは時々、洲本教会が100年を記念して発行されました、「み翼のかげに 洲本教会100年のあゆみ1903～2003」を読んでいます。

写真入りでよくまとめられたものだと敬服しています。

そこに「教団名の変遷」という個所があります。

この記念の日に、少し振り返ってみたいと思います。現在洲本教会は日本基督教団に属しています。日本基督教団は1941年(昭和16年)に時の日本政府の要請で全国のプロテスタント教会は日本基督教団としてまとめられたのです。これはいわば強制的な国の政策でありました。

ですから日本基督教団は、各教派が集まった合同教会です。戦後も今日まで日本基督教団は続いて存続し、現在は全国に1700～1800のそれぞれの教会の歴史・伝統を持つ、各個教会があります。日本基督教団の属する教会は、ほとんどが宗教法人格を持っています。管轄は国は文科省、兵庫県は総務部法務文書課となっています。ちなみに日本基督教団には、信仰告白と規則があります。規則に違反しない限り、活動内容は各教会に任されて、従来からの教派の伝統に任されているゆるやかな団体ともいえます。牧師の招聘は、団体からの任命

ではなく、各個教会と牧師との契約関係で決まります。

今回洲本教会の100年のあゆみで興味深かったことですが、P75に、「教団名の変遷」が載っていました。洲本教会は、淡路伝道の先駆者である、柿原正次牧師、また河辺貞吉牧師によってスタートし、多くの宣教師の方々が来日されています。教会の2階に写真が飾られています。洲本教会の教会としてのルーツは、日本自由メソジスト洲本教会です。宣教師の方々は、日本フリーメソヂスト教会と表記されています。この時の「メソジスト」の「ジ」は「ヂ」が使用されています。表記名は混在しているようです。

「み翼のかげに 洲本教会100年のあゆみに」よれば、創立後、日本聖化基督教団洲本教会となり、戦時中は、プロテスタン教会の各派ごとに部会制がひかれており、「日本基督教団8部洲本教会」となりました。戦後は「日本基督教団洲本教会」になりましたが、1952年には日本基督教団から離れ、「宗教法入日本自由メソジスト教団洲本教会」となりました。その後1984年にはどの教団にも属さない決断をし、福良教会と共に、単立教会となりました。そしてご存じの方も多いたと思いますが、1998年に日本基督教団に再加入して現在を迎えています。土山牧師の時でありました。

個別の洲本教会として見れば、創立以来119年、各個教会としては、その信徒の群れは変わってはいないのですが、洲本教会が属する団体に関しては全国でも珍しい変遷をとげた教会だと思います。

教会が属する団体が変わるという事は大変なことだったと想像がつかます。

その都度、教会内で協議がなれて、時には喧々諤々感情的になる議論もあったのではないかと、それをまとめる役員や牧師の心労は計り知れないものであったと想像するのです。事務作業量も膨大で、他の教会でも信徒の間に亀裂が入ることも多く個別の教会が分裂することも時にはあるのです。

洲本教会にも、そのような危機の時はあったことだと想像ができます。

特に戦前、戦時中、戦後直後は時の世界の状況、教派間の状況の中で、教会も教職も信徒も翻弄されてきたことだと思わされます。そんな中、個別教会として119年も続いてきたということは、奇跡的と思えますし、このことのためには歴代の牧師や家族、教会を想う信徒たちのキリストへの信仰、洲本教会を愛する信徒たちの思いと篤い祈りと奉仕があったことを思わされ胸が熱くされました。

教会を想う祈りと奉仕によって歴史の中で主の教会は続いていくのです。

この時、みことばに聞きたいと願います。今日の宣教「神のために力を合わせて働く」コリントの信徒への手紙は伝道者パウロの手紙です。パウロの奉仕によってコリント教会は誕生したのです。

しかし、手紙を書いたその頃は、教会内に深刻な問題があったようです。パウロは語ります。

1:兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語ることができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。

パウロはコリント教会の信徒たちに率直に忠告しているのです。

それは、コリント教会の信徒間の問題でした。コリント教会は様々な問題の多い教会だったのです。

2:わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかつたからです。いや、今でもできません。

3:相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。

特に、「お互いの間にねたみや争いが絶えない」ことに、パウロは心痛めているのです。これが伝道者を一番苦しめることなのです。

4:ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。

アポロはパウロの次にコリント教会に来た教師で博学で力強い宣教をしたようです。信徒が気をつけないといけないことは、歴代牧師を比べて差をつけないということです。でもどこの教会でもそうなりやすいのです。人間的には、それはあるし、分かります。

しかし、教会的には、教会の成長にとってはマイナス効果しかないようです。

パウロは毅然と言い切りました。

「5:アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に応じて仕えた者です。6:わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」と。

神さまは、信徒の群れの祈りに応えて、時に応じて相応しい牧師を遣わされ

るのだと思います。信徒たちの祈りに応じて牧師を派遣されると信じます。遣わされる者たちは、信徒の個人的な願いではなく、群れとしての切なる祈りに応えるのです。

「7:ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」と言い切っています。人に目を向けると、必ず欠点が見つかる。イエスと神に目を向けると信仰からくる感謝とゆるし合いと忍耐が身に着いて行くのです。

それが普段の人間関係においても、家庭でも、職場でも、地域でも、教会でも良い実を結ばせるのです。

8:植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取ることとなります。9:わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

伝道者パウロは、自分の後にコリントに来て働いたアポロも共に神のために力を合わせて働く者であることを認めて受け入れています。

そして今コリントの教会の歩みを担っている信徒の人たちは、つまりここにいる皆さまは、神さまの畑、神の建物なのだと思われたいのだと切々と語りかけているのだと思わされます。二人または三人が、主の名によって集まる所に、主はおられるのですから、皆さまの祈りによって力の乏しい、小さなわたしも神の助けによって牧師として立てられていることを心から感謝しています。

わたしたちは、今後、教会内で互いに意見は違っても争うのではなく、語り合い主の導きを尋ね求めて、主イエス・キリストへの信仰にしっかりと立って、互いに愛し合い、大切にしながら、今からの教会の歩みを覚え合い祈りあって歩むことを願います。

洲本教会創立119周年を心から感謝し、天上の友、そしてここに集わられた皆様の上に主の平安を心より願い祈ります。